

# 令和5年度 第3回 学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 2023年11月13日（月） 15時00分から16時30分
2. 開催場所 天竜中学校2階被服室
3. 出席委員 米山英二、齋藤 誠、鈴木滋芳、西尾和史、鈴木景子、中村まゆみ、匂坂典男  
（敬称略） 伊藤武司、伊藤太一（学校支援コーディネーター）
4. 学 校 野秋愛美（校長）、神谷利之（教頭）、山城百孝（教頭）、鈴木美音子（主幹）  
鳥居ひろみ（2年学年主任）、袴田敦士（生徒指導主事）、佐野正已（CSディレクター）
5. オブザーバー 西澤幸次郎（天竜協働センター長）  
傍聴者 なし
6. 会議録作成者 CSディレクター 佐野正已
7. 会長あいさつ <詳細略>
8. 校長あいさつ <詳細略>
9. 議長の選出  
議長は運営評議会会長の鈴木滋芳さんに引き続きお願いすることで全員これを了承した。
10. 前回会議録の確認 <詳細略>
11. 熟議
  - (1) 2年生職場体験報告 2年学年主任
  - (2) いじめ防止への取組 生徒指導主事
  - (3) 学校部活動について
12. 報告
  - (1) 地域ボランティアについて 神谷教頭
  - (2) 桜並木の保全活動について //
  - (3) 全国学力・学習状況調査について 鈴木美音子主幹
13. 会議記録  
委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達していることから会議は成立とした。

## 熟議

### (1) 2年生職場体験報告

○10月19日、20日に実施した職場体験についてその目的と実施に至る経過について2年学年主任が報告した。協議会委員や地元自治会から紹介されたものも含め計64ヶ所で体験ができた。生徒の活動はおおむね好評であったが、ごく一部の事業所ではあるが、事前質問が用意されていないなどの課題もあった。（鳥居学年主任）

・職場は学校側で決めるのか？それとも生徒が決めるのか？（伊藤太委員）

→基本的には職種で生徒の希望をとり、学校で割り振っている。生徒から第4希望までとってその中で決めている。（鳥居学年主任）

・生徒の希望に沿ったものであれば質問もある程度できるようになるのではないかと。（伊藤太委員）

→協働センターにも行ったと聞いているがどんな感じだったか？（鈴木滋議長）

・生徒は作業をとてまきぱきとやってくれた。講座の企画やアンケートの聞き取り調査をしても良かったが、回答者から大変よかったと聞いた。（西澤センター長）

・事前の準備はどのような形で行われたのか？（匂坂委員）

→1年時に進路学習を実施して、どんな職種でどのような仕事があるのか事前に学習させた。その後あいさつの仕方等のマナー講座やコミュニケーション指導で電話のかけ方とか訪問する事業所を事前に調べさせたりした。また職場体験の前に職業講話を10社程度やる予定であったが、インフルエンザで学級閉鎖もありこれは延期した。(鳥居学年主任)

・生徒の希望職種(第1～第4希望)のデータがあれば、それをまとめればその傾向も掴めるし、その傾向は大きく変わるとは思われないのでそれを参考にして来年度の事業所選びに反映させたらと思う。(伊藤武委員)

→次年度は昨年と今年度のデータで傾向をつかみ対応するようにしたい。(鳥居学年主任)

・東区は交通事故が多いので気になっているが、体験先の事業所までの交通手段は?(齋藤委員)

→原則として徒歩と電車・バスの公共交通機関で対応させ、自転車は認めていない。場所によっては親御さんの車で対応してもらった。(鳥居学年主任)

## (2) いじめ防止の取組

○今年度は全4回のいじめアンケートを実施する予定で10月上旬に2回目を実施した。結果は10件程度の回答をもらった。そのうち天中としていじめと認知したのは5件位で、命に関わる問題や緊急性のあるものは無かった。主には生徒同士で陰口を言ったり無視されたりというような内容。翌日「いじめ対策委員会」を開き学年、担任を通じて指導にあたった。私の感想であるが、いじめを受けた生徒からはいじめをした生徒を指導してほしいとの要望はなく、誰が言ったかも言ってほしくない、直接指導はしてほしくないと要望を書いた生徒もいたので、対応には非常に苦慮した。こういったところが最近の傾向。その場合、学校としては全体への指導やクラスへの投げかけをして、困っている生徒がクラスにいるとか、学年にいるということを伝えて注意を促している。こうした指導までしかできていない場合もある。いじめられた子供が納得しきれているかどうかかわからないが、それ以降問題は起きていないので一応成果は出ているものと思う。2学期の2回目は12月上旬に予定している。これまでは紙面でおこなってきたが、今回はネット上で回答させる。内容は資料のサンプルのように「小学校4年以上」の設問を使う。こうした内容を生徒ひとりひとりのタブレットを使って回答してもらおう。今まではアンケート用紙を渡して家で書いてきてもらったが、今回は学校で時間をとって回答するようになる。私としては紙に書いた「はい」「いいえ」の回答で、直している箇所があった場合、直したときの気持ちを確認したりして接触してきたが、ネット上で直接のやり取りになるとこういう点はどうなるか心配はしている。ウェブアンケートの良い点、悪い点について見届けていきたい。

(袴田生徒指導主事)

・指導を望まない生徒がいるということだが、それは生徒が更にいじめられることを望まないということか?あるいは事を荒らげたくないとか親には言えないと言っているのかそのあたりはどうなのか?(伊藤太)

→主に女子の中でそう考える子が多い。(袴田主事)

・男の子が男の子を、女の子が女の子を、あるいは男の子が女の子を、女の子が男の子をと異性をいじめたりすることはあるのか?(鈴木滋議長)

→ある。今回はグループ対ひとり、昔はグループで直接ひとりをいじめることがあったが、グループ内での陰口が本人に伝わってしまったというケースだ。(袴田主事)

・今年度は浜松市から年1回はウェブ画面でアンケートに答えさせるように言われている。このアンケートではチェックしきれなかったことについてもアラートとして出てくる。総合的にみてこの子は危ないという子のリストが一覧で出てくる。アンケート後半の先生や親に関する設問の答えとも併せて、注意が必要だと判断される時はリストに自動的に掲載される。ある小学校で

は、3分の1の児童にアラートが出たと聞いている。ちょっと学校に行きたくなければ、それが反映されることもある。それらすべてをいじめによる結果だとすると大変な事になるが、子供たちの日常生活全体での思いであると考えればそのまま、こうした結果も改善のヒントになるかなと考えることもできる。本校もどんな結果になるかやってみないと分からないが、出てきた問題にはしっかりと対応していかないといけないと考えている。(野秋校長)

・いじめられている子はなかなか言えないのでは？(米山委員)

→いじめは1学期から3学期に向けて、1年から3年に向けて段々と減っていく傾向にある。それは子供達の成長もあるかもしれないが、純粹にいじめに対する抑止力が強まっているかも知れない。また生徒が回答する時に、この程度のことで回答はやめようと考え直しているかとも思っている。いい意味で子供達の中で消化している結果なのだと思う。(袴田主事)

・表題でいじめアンケートとあるが、いじめられている人間からするとなかなか書きたくないのでは？(米山委員)

・いじめている子もいじめていない意識が無いのでそこら辺がややこしいのでは？(鈴木滋議長)

・アンケートを考えた時にこういうのを目撃したとかの質問の方が信憑性はあるのでは、周りの人が見ていてもじゃれあっているとしか見えなくても、本人にとってはいじめととらえていることもある。周りが見ている中でもう少し客観的に捉える質問があってもいいのでは？(鈴木景委員)

→実際にいじめを受けている生徒は何も書いていないが、第三者が見た目撃情報から問題が発覚することもある。その時いじめを受けている生徒に聞くと、自分は何ともないとの答えだったりして、そういう場合の指導もなかなか難しい。(袴田主事)

・いじめに限定して聞くと回答がなかなか書けないと思うので、学校生活全般でいじめを外したアンケートにしてもっと自由に回答できるアンケートにしたら良いのでは？(匂坂委員)

・会話の中でいじめられている子どもはなかなか答えにくいだろうと考えると、大事なことは周囲で少しでも何かが変わっているようだ気づいたら、積極的に学校とか親とかが動いて確認できるようになっていけば良いのでは。そうした仕組みが大切だと思う。(匂坂委員)

・紙よりタブレットでアンケートを取ることは意義深いと思った。(西尾委員)

・(表題で)あえていじめアンケートとしているのか？(伊藤武委員)

→いじめアンケートは法律で決まっている。昨年度浜松市教育委員会がいじめの対応について何度も指摘を受けた中で、こうしたものも必要だろうとのことで今年度から実施している。そうした背景からいじめを前面に出してやっていることをご理解いただきたい。(野秋校長)

・アンケートをする事で抑止効果もあるのではないかと思うが。(伊藤武委員)

→それはあると思う。(野秋校長)

・毎月アンケートをやっていたらよくなるのでは？(伊藤武委員)

→上級生になってくると、書かないで自分で解決していくようになり、抑止になっている面もあると思う。(野秋校長)

・いじめについて終わりはない、引き続き見守っていきたい。(鈴木滋議長)

### (3) 学校部活動について

○天中には636名の生徒がいるが、今後部活動の自由化が進むと部活に入る子供達が減ってくる。天中の野球部は現在単独チームで出ているが、雄踏中と舞阪中は、新人戦に合同チームで出てきた。教員数も部活動の状況によって減ってゆくものと思われる。全ての部活動に関して顧問がいるというのも段々難しくなる。そうした状況下で天竜中学校として部活の統廃合は必然と考え、規定の作成に着手するための検討委員会を立ち上げようとしている。再来年の完成を目指して

その年度に入学してくる子供達から適用しようと考えている。いろいろアドバイスを頂けたら幸いだ。（山城教頭）

- 部活動顧問・生徒数一覧（2023/11/10 現在）参照、部活動に参加していない子どもが120名、636名のうち516名が活動している。天中であっても今後は単独チームとして出られなくなる部活も出てくる。実際剣道部女子は1名なので他校の生徒2人とチームを作り大会に出た。部の統廃合について、たとえば6つのケースにまとめ、その対応案をまとめていく「きまり」を作りたいと考えている。今後に備え今から準備していく。（野秋校長）
- ・近隣中学校との統廃合はどうやってやるのか？（匂坂委員）
- 天中にもあり先方にもある部活で話がうまくまとまれば統合もできるが、少人数でも顧問をつけることになりそれが難しいとも考えられる。（野秋校長）
- ・中体連の方ではどんな動きをしているか？学校側ばかりで動いているのではなく、部活を運営する側として中体連はどう考えているか確認したいが。（鈴木景委員）
- 前回の資料で「静岡県合同チームの参加規程」を配布しているが、すべての部活ではないが対応している。（野秋校長）
- ・部活動の人口が減っていく中で中体連として何等かの対策をしてはいないのか？（鈴木景委員）
- 中体連としてそうした要望に応えていくことは難しいと思っている。中体連で対策をとっても、結局は対応するのは学校。（野秋校長）
- ・天中以外の生徒数の少ない学校である部活を希望する生徒がいた場合、天中でも受け入れるようになるのか？（匂坂委員）
- 合同チームの場合は他校の生徒が天中の部活に参加する場合もあるだろうが、現在はその場合は天中ではなく地域のスポーツクラブが受け入れ先となる。最近中体連は大会に地域のスポーツクラブの参加を認めつつある。仮にクラブ参加となるとその学校での部活はなくなっていく。（野秋校長）
- 生徒数の少ない学校は最初から部活はない。例えば水窪中では男子は野球部、女子はバスケしかない。小規模校は最初から部活を増やしてはいない。（山城教頭）
- 天竜区は中学校4校で野球チームを作っている。いずれにしてもこうした規定を作っていくことは非常に重要だと感じる。ルールは決めておいた方が良い。もしこうした規定があれば近隣校との連携で考え方の共有がはかれると思う。（野秋校長）
- ・部活のそもそもの目的で教育の一環としてやっている部分が多少あると考えた時、全ての部活を地域クラブに移行するとなると、勝利を目指すだけの活動となってしまうがちになり、本来の中学生のスポーツとかけ離れたものになってしまう心配がある。そのあたりも含めて、地域移行を進めていかないと形としておかしくなってしまう心配がある。将来単独で部活を持つことが減っていく中、そうしたことも踏まえて検討していただきたいと思う。（齋藤委員）
- ・最終的にクラブチームになっていった時に、クラブで採算が取れなくて赤字になってしまうなどの危険がある。そうした時に先生の側からアドバイスができる形になっているのが良いと思う。また最終的には採算が必ず問われることになる。（伊藤武委員）
- ・事業として採算がとれるかという問題で、教員の兼職兼業は検討時の絶対条件だと思う。教員の兼職を認めるには、教員の超過勤務をかなり減らさないといけない。そうした時部活動は4時半までと決めている自治体もある。超過勤務を相当減らさないと兼職兼業は認められない。（野秋校長）
- ・校長先生が言うように必要なところは決めていかないといけない。地域で何を定めるべきか絞っていく必要がある。まずは指導者が地域にどの位いるのか調べないといけない。（鈴木滋議長）

- ・それをどうやって掘り起こしていくか考えないといけない。（野秋校長）
- ・地域におろした場合、やるやらないは生徒側/学校側にかかわってくる。そうなってくると地域クラブに行く生徒は減ってくるのではないかと思う。（米山委員）
- ・懸案事項はそうやって出てくると思うが、とりあえず地域としては段階的に進めていく、例えば地域に指導者がどれだけいるのか、その先でお金はどうなり、実際の活動はどうなっていくのかとかに話が進んでいくと思う。まず何をすればいいのかわからないが、地域移行となった時指導できる人は地域に何人いるのか、アンケートのたたき台を作って欲しい。（鈴木滋議長）
- ・指導者も自分の子供がやっている時は指導をしているが、子供が卒業すると指導者の代わっていき、指導する人も生徒もどんどん代わっていくのが実情。（伊藤武委員）
- ・準備段階という事でやれるところからやってもらいたい、まずは指導者の調査から始めてもらいたい。（鈴木滋議長）

## 報告

### (1) 地域ボランティアについて

- ・ボランティアの参加状況は別表参照
- ・県の総合防災訓練の生徒の感想 <詳細略>
- ・ボランティア活動に参加した生徒に対して、主催者側から参加証の発行をしていただく様をお願いしていく。（神谷教頭）

### (2) 桜並木の保全活動について

- ・学期末に昨年同様、植樹を計画している。3年生の代表で公立高校の受験日後に計画したい。（神谷教頭）

### (3) 全国学力・学習状況調査の結果について

- ・添付資料参照 <詳細略> （鈴木美音子主幹）

## その他

### (1) 今後の予定

第4回の日程は本日いただいた委員の方々のアンケートでもって決めたい。（神谷教頭）

### (2) 教育委員会から

- 学校運営協議会自己評価について今年度末も昨年同様のお願いをしたい。（堀田指導主事）。
- ・熟議チェックシートを使って自己評価の後、学校運営協議会自己評価表に記入していただき第4回会議で報告していただく。回答用紙は当日回収する。熟議チェックシートは提出不要。（神谷教頭）